

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識および能力 (学校教師学部)

学校教師学部中等教育教員養成課程は次の目的(養成する人材像)を掲げています。

優れた学習指導能力及び生活指導能力と対人関係能力を兼ね備え、生徒・父母そして社会から真に教師として信頼される人材を養成することを目的とする。

この目標(養成する人材像)に基づき、学生が習得すべき知識及び能力は以下の通りです。

1. 教師に必要な「広く深い教養」

教養とは、人間の精神を豊かにし、思考、判断、行動の基盤となる幅広い知識を示します。哲学、歴史学、心理学など、人類の長い歴史の中で重視されてきた8つの科目を1・2年次に必修として学びます。さらに3, 4年次には芸術史、日本近代文学、自然科学史など全部で16科目の選択科目が用意されており、4年間を通して、教師に必要な幅広い教養を身につけることが求められます。

2. 「授業で勝負できる授業力」

「教科教育法」「教材研究」「授業研究」等の実習科目を学び、授業力を身につけますが、夜間学修を利用して、専門教科の学力を一層高めるとともに、経験豊かな教員の指導のもと、良い授業を行うために必要な「板書の技術」や「ICT教育」を推進するための技能を学びます。そして、グループを作って「模擬授業」を繰り返し行って、「授業で勝負できる授業力」を身につけることが求められます。

3. 「生徒を理解する力」や「生徒指導力」

1年次より、近隣6市の公立小・中・高等学校で「学校現場研修」を行って、教育現場で強く求められている「児童・生徒を理解する力」をはじめ、「生徒指導力」「ホームルーム経営の力」などを身につけることが求められます。また、3年次には系列の中学・高等学校で「プレ教育実習」を行い、実際に教壇に立つことで、指導技術の向上を図り、4年次の教育実習に備えます。

4. 「対人関係能力」や「コミュニケーション能力」

教師には、優れた「対人関係能力」や「コミュニケーション能力」が強く求められています。本学部では、全国から集まった学校教師になることを熱望する学友たちと寮生活を行うことで、それらの能力を養います。さらに、規則正

しい生活によって、「自律の精神」や「正義、寛容、思いやり、理解と共感、役割と責任」など、望ましい生活習慣と品性を身につけることを求められます。

5. 「生きた英語力」、「海外の教育指導のあり方」への理解

英語専修コースは5か月間、他の専修コースは4週間、イギリスに留学し、秀明学園が設置した研修施設で「生きた英語力」を磨きます。また、ホームステイを行って、日常生活の中で英語を学ぶとともに、イギリスの歴史や文化に関する理解を深めます。さらに、フランスやドイツをはじめヨーロッパの教育現場を訪問して、学校制度や教育指導のあり方について視察研修を行い、識見を高めることが求められます。

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識および能力 (看護学部)

看護学部は次の目的（養成する人材像）を掲げています。

「生命にかかわる専門職としての幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、科学的根拠に基づいた質の高い看護実践能力、グローバル社会で活躍できる英語力と国際感覚、医療現場におけるITスキルと看護に必要な情報の活用能力、主体的な学修態度と自己研鑽の力を修得し、看護職として将来にわたって地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる看護師、保健師の育成を目的とする。」

この目標（養成する人材像）に基づき、学生が習得すべき知識及び能力は以下の通りです。

1. 幅広い教養と豊かな人間性、倫理的感受性
2. 人間の健康と疾病に関する科学的根拠に基づいた看護の基盤となる最新の知識
3. 看護学の最新の知識と技術の修得による科学的根拠に基づいた看護実践能力
4. 変化する時代のニーズに対応できるグローバルな広い視野と看護職に必要な英語力
5. IT スキルと医療現場における看護に必要な情報を的確に活用する力
6. 主体的な学修と生涯自己研鑽に励む態度、知識や技術の統合力、問題解決能力や創造力など、質の高い看護を実践する力
7. 地域の医療専門職と連携・協働し、看護の専門性を発揮する力

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識および能力 (総合経営学部)

総合経営学部は次の目的（養成する人材像）を掲げています。

「幅広い教養と豊かな人間性を基盤とし、企業経営の専門知識ならびに実務能力をはじめ、企業人として活躍できる能力を総合的に備えた人材を育成することを目的とする。」

この目標（養成する人材像）に基づき、学生が習得すべき知識及び能力は以下の通りです。

1. 幅広い教養と豊かな人間性

人・モノ・カネが世界規模で動き、価値観が多様化した現代は、人間性を育み、思考・判断・行動の知的バックグラウンドとなる教養が不可欠です。そこで幅広い見識を備えたグローバルな人材を育成するために、教養科目 8 科目を設け、全学生必修としています。これらの科目は、いずれも人類普遍の基本的な教養に関する科目です。1 年次には日本近代史、日本現代史、心理学総論、思想史総論、2 年次には世界近現代史、経済社会学総論、法政治学総論を設置。世界の歴史を背景にした日本の近現代史に関する基本的な理解は、近隣諸国はもちろんのこと、諸外国との関係を考えるうえでも不可欠です。それに加え、人間の心理的課題、世界の重要な宗教や思想の歴史、現代社会における経済や法、政治など社会に密着した科目で構成されています。必修の全科目を完全に履修し、人間性に富んだ教養人の第一歩を踏み出すことが求められます。

2. 企業経営の基礎的・体系的な専門知識

経営に関する専門科目として企業経営の基礎となる「経営学総論」「会計学総論」「入門簿記演習」を全員の必修とし、そのうえで専門科目群を「経営学関係」「会計学関係」「商業・金融関係」に大きく分類し、体系的に専門科目を学んでいくことを目指しています。これらを通して企業経営の基礎的・体系的な専門知識を修得することが求められます。

3. 経営の実務的能力

単に経営理論を学ぶだけでなく、実務能力を持つことが企業現場において必要です。簿記やコンピュータリテラシー能力などは、その実務能力にも繋がるものであり、それらの科目を必修としています。またさらに各種実務能力を養う資格取得のための科目を選択科目として置いています。それらを通して実務能力の向上を図ることが求められます。

4. 企業人として活躍できる総合的能力

3・4年次を通しての専門演習（ゼミナール）における課題研究への取り組みや討議形式の演習を通して、問題解決能力や判断思考力を高め、企業人としての総合的能力の涵養を図ることが求められます。

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識および能力 (英語情報マネジメント学部)

英語情報マネジメント学部は、次のような目的（養成する人材像）を掲げています。

高い英語コミュニケーション能力とコンピュータ処理活用能力を備えた企業人として、現代の国際社会、情報社会で活躍できる人材を育成することを目的とする。

この目的（養成する人材像）に基づき、学生が修得すべき知識及び能力は以下の通りです。

1. 人類が築き上げてきた文化遺産としての教養

グローバル化に伴い人や物資が世界規模で移動する社会では、多様化した価値観を理解し容認する寛容的な姿勢が求められています。こうしたさまざまな思考や行動を適切に判断するには知的バックグラウンドとなる、これまで綿々と引き継がれてきた教養が必要不可欠です。本学部ではこの教養を養うため人文社会系の必修教養科目を8つ、さらに自然科学系の科目を含めて16科目の選択教養の科目を用意しています。

2. 高い英語コミュニケーション能力

正規授業の一環としての5ヶ月間のイギリス留学制度や最長2年間履修可能なネイティブ教員による少人数制と双方向型授業形態の「英会話」授業を通して、実践で使える生きた英語の習得と国際舞台で積極的に発言できるコミュニケーションテクニックを身につけます。

3. 企業人に求められるコンピュータ処理活用能力

社会人として習得しておきたい情報関連の資格取得や即戦力となるコンピュータ処理技能、情報の専門分野としてのネットワーク構築や情報科学、経営情報、クロスメディアデザイン等の領域に関する知識、情報に関する学問的知見の修得が求められます。

4. 日本人としての自覚、国際人としての資質

イギリス留学での日本紹介やボランティア活動などの地域貢献、日本のキャンパス内における国際交流プログラムにおける学生間交流、さらには異文化理解に関する正規授業などを通し、異文化背景の人々の文化を理解するとともに、日本人としてのアイデンティティを確立し、国際社会での適切な立居振舞いを学ぶことが求められます。

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識および能力 (観光ビジネス学部)

観光ビジネス学部は、次の目的（養成する人材像）を掲げています。

『サービス産業の経営学』を専門とし、英語と情報を使いこなし、国際的な観光産業を支える人材を養成することを目的とする。」

この目標（養成する人材像）に基づき、学生が修得すべき知識及び能力は以下の通りです。

1. 国際化に対応した幅広い教養

人・モノ・カネが世界規模で動き、価値観が多様化した現代の観光業界で活躍するためには、思考・判断・行動の知的バックグラウンドとなる教養が不可欠です。そこで、1年次に日本近代史、日本現代史、心理学総論、思想史総論、2年次に世界近現代史、経済社会学総論、法政治学総論、国語表現法の計8科目の教養科目を設け、全学生必修としています。人間の心理、世界の宗教や思想の歴史、現代社会における経済や法、政治など社会に密着した知識の修得に加え、世界や日本の近現代史に関する基本的な理解を深めることにより、観光の国際化に対応できる幅広い教養と国際感覚、異文化理解力を身につけます。

2. 観光産業に求められる高い語学力

正規授業の一環としての5ヶ月間のイギリス留学を必修としています。また、全学共通の総合基礎科目では、国際的な観光交流の促進のために必要な英語力を強化するための「英語資格演習」をはじめとする外国語科目を設けています。さらに、観光ビジネス学部の専門科目として、ネイティブ教員による少人数制と双方向型授業形態を特徴とする「観光英会話」を設けており、観光ビジネスに役立つ英語を中心とした実践的な語学力、コミュニケーション力を身につけます。

3. 経営学の視点から観光産業全体を見る力

観光ビジネス学部の必修科目である「観光概論」「観光ビジネス実務総論」「観光地理」を1, 2年次に履修し、観光ビジネスの全体像を理解します。2年次後期からは「観光マーケティング」「国際観光振興論」等の専門科目を通じて観光事業、観光行動、観光需要等に関する理解を深め、観光経営に必要な能力を体系的に修得します。また、少人数制と双方向型授業形態を特徴とする専門演習科目（ゼミナール）を一年次から履修し、観光の具体的事例に基づき、知識の活用能力、論理的思考力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、観光ビジネスにおいて必須となる汎用的な基礎能力を修得します。

4. 観光業界で役立つ実践的能力

旅行業、航空産業、宿泊産業等の業種業態に密接に関連する専門科目の履修を通じ、それぞれの業種で求められる実践的知識と実務能力を養います。また「サービスコミュニケーション論」「秘書実務」等のコミュニケーション力を高めることに特化した専門科目を通じ、ホスピタリティ、接客スキルやビジネスマナー等を身につけつつ、サービス接客検定や秘書検定等に挑戦して資格取得を目指します。さらに国内外で実施されるインターンシップ等の体験学習や、企業見学等の学外教育活動を通じ、観光産業の現場に即したチームワーク力、リーダーシップ力を修得します。